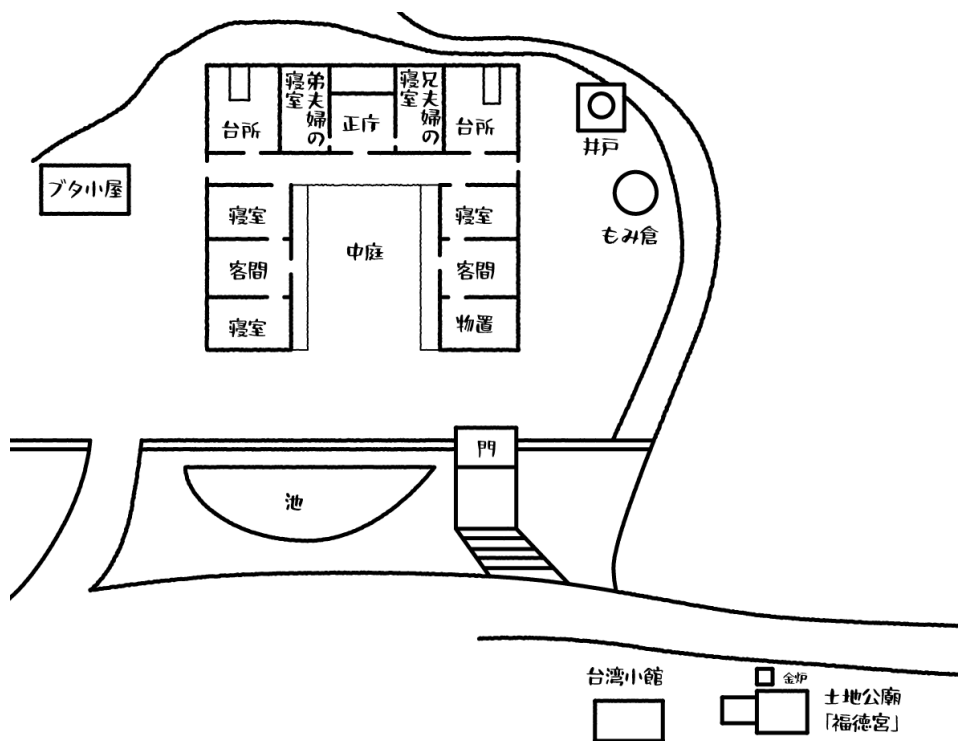


たいわん の う か 台湾 農家

この家は中国大陸南部 ^{ふっけんしょう} 福建省 から ^{いじゅう} 移住してきた ^{かんぞく} 漢族の伝統的な農家を ^{ふくげん} 復元したものです。中国南部の ^{けんちくようしき} 建築様式の流れをくみながら、台湾の ^{ふうど} 風土に合わせ、^{ねったい} 熱帯の強い ^{ひざ} 日差しをさけるため、また ^{ぼうふうう} 暴風雨の ^{しんにゆう} 侵入を防ぐため、壁を厚くし ^{ふせ} 柱廊で家屋の前面をとりまき、^{やねがわら} 屋根瓦を ^{しっくい} 漆喰で ^ぬ 塗り ^{かた} 固めるなどの工夫があります。



とちこうびょう ふくとくぐう 【台湾の土地公廟：福德宮】

「台湾 農家」の向かいにある建物は「福德宮」という名前の土地公廟です。^{ふくとくせいしんとちこう} 福德正神土地公と呼ばれる神さまがまつられています。土地公は民間信仰における土地の ^{しゅごしん} 守護神です。

歴史と住まい：ふるさととのつながり

山がちな土地で ^{しょくりょう}食糧 不足に苦しんでいた中国南部の人びとは、17 世紀なかばから 19 世紀末にかけて、台湾に新しい農地を求めてたくさん移り住みました。この家は、そのような ^{ふっけんけいかんみんぞく}福建系漢民族の伝統的な農家で、1917 年に建てられた家をモデルとし、1950 年代頃の生活を復元しています。

【三合院】

^{なかにわ}中庭を中心に ^{さんぽう}三方に ^{むね}棟が並び、このような建築形式を三合院と呼び、中国南部の流れをくむものです。中央の部屋 ^{せいちょう}正庁では、祖先や ^{どうきょう}道教の神々をまつっています。正庁を背にして左手が ^{かちょう}家長である兄夫婦の部屋、右手が弟夫婦の部屋で、左右から伸びる棟は、成長した子どもたちの部屋や農具置き場として使われます。こうした部屋 ^わ割りは、左を ^{ゆうい}優位とし、^{ちようよう}長幼の ^{じょ}序（年上と年下の ^{じょれつ}序列や ^{じゆんじょ}順序のこと）を重んじる考え方に基づくもので、屋根の高さにも反映されています。また、赤レンガを ^う積みあげた壁や、^{すや}素焼きの ^{かわら}瓦 を重ねた屋根なども伝統的な三合院の特徴です。

☞ 兄と弟、どちらの部屋の屋根が高いかな？正面からチェックしてみましょう。

【新天地で身を守る住まい】

台湾へ移住した人びとは、争いや ^{とうぞく}盗賊から身を守るために、家のまわりにトゲのある竹を植えました。また、窓を小さく、少なくし、さらにぶあつい木の ^{とびら}扉に ^{がんじよう}頑丈なかんぬき（扉が開かないようにする ^{よこぎ}横木）をつけました。

☞ ほかに、^{しんにゆう}悪霊の侵入をふせぐための工夫もあります。探してみましょう。

【風水思想】

古来より中国には、風水という理想的な環境を ^{さだ}定める考え方があります。家屋は南向きに建て、背後に山林をひかえ、前面に池（水）を配すると良いといわれます。家族の健康や、家の ^{はんえい}繁栄を願う人びとは、^{ふうすいし}風水師に相談し、^{ちけい}地形や ^{ほうい}方位を ^{かんてい}鑑定してもらいます。